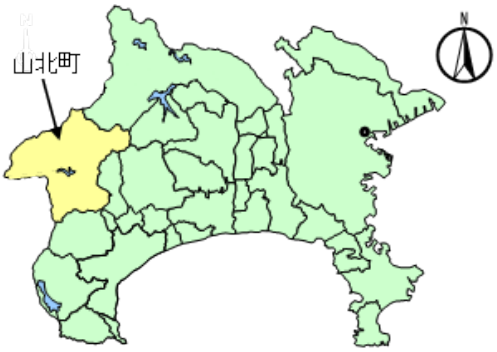
5 山北つぶらの公園　都市公園整備事業
［山北町川西～都夫良野地内］

1 プロジェクトの内容と目的

- 本公園は、神奈川県西部にある山北町の南部に位置し、南側に東名高速道路、国道246号の主要な幹線道路と接している、開園面積17.9haの広域公園である。
- レクリエーション需要の増大に対応するための広域的なレクリエーション活動の拠点として、雄大な眺望や豊かな自然、歴史文化等の地域資源を活用し、防災機能や誰もが楽しめるユニバーサルデザインにも配慮した公園を整備することを目的とする。

神奈川県域図



山北町域図

事業地周辺図

園内の施設

さくら山展望広場からの富士山の眺望

パークセンター

遊具広場

プロジェクトの内容

- 公園種別
  広域公園
- 事業箇所
  山北町都夫良野地内
- 開園面積
  17.9ha（第１期整備区域18.3ha）
- 主要施設
  パークセンター、さくら山展望広場、つつじ山展望広場、遊具広場、主園路、駐車場等

2 プロジェクトの効果

● 歴史的な文化の保全・活用

本公園内にある鐘ヶ塚砦跡や公園周辺にある河村城跡等をめぐる山城めぐりバスツアーを開催する等、利用者に地域の歴史を知ってもらうとともに、町に存在する文化財の保全・活用を行っている。

● 地域の活性化や地域住民の活動の場

周辺の文化施設等を一緒にめぐるハイキングツアーをはじめとした公園だけでなく町全体と連携したイベントを開催する等、地域活性化の場として役立っている。

また、山北町開催の男女の婚活イベントやヨガ教室、幼稚園の遠足等、地域に根差した活動を積極的に受け入れることにより、地元や周辺地域の人々の交流や活動の場としても利用されている。

● 地域防災と安心・安全

山北町が策定した地域防災計画では、本公園の駐車場が災害時のヘリコプターの臨時発着場として位置づけられており、緊急時の活動拠点としての活用が見込まれ、周辺住民の安全・安心につながっている。

● 伝統産業の継承

荒廃した茶畑を茶摘みが行えるよう再整備し、収穫されたお茶を公園利用者に提供する等、地域の伝統産業を身近に感じてもらっている。

● 公園の存在価値の再認識

コロナ禍において、都市の身近なオープンスペースとして、公園の価値が再認識されている。本公園においても、ハイキングや散策等、運動不足やストレス解消の場として、利用されている。

周辺施設と連携した山城めぐりツアー

近隣幼稚園の遠足

地域の伝統産業である茶畑

事業の効果の発現状況

● 来園者は、開園時から増加傾向にあり、事業効果が発現していることが確認できる。

● ９月26日(日)に来園者(22名)にアンケート調査を実施したところ、全員から「満足」との回答が得られた。自由意見として「山北町の中でベビーシートのあるトイレはこの公園だけなので、小さな子を連れてきた場合にとても助かる」、「食べ物を購入できる自動販売機が欲しい」等の意見要望があり、こうした声を今後の管理運営に活かしていく。

● 本公園は、もともと管理されていない山林であったが、本公園を整備することにより、山林に代わり、広葉樹やツツジ等に植え替え、公園施設として適切な管理を行い、樹木の生育のみならず、そこに暮らす昆虫や動植物等の生息環境が向上した。

● 起伏のある地形ではあるが、スロープを設置することにより、車椅子やベビーカーでも安全で快適に移動ができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れて設計した。また、オストメイト対応トイレや、幼児、障害者の方が安全に遊べるブランコを設置する等、誰もが公園を楽しめるよう配慮した。

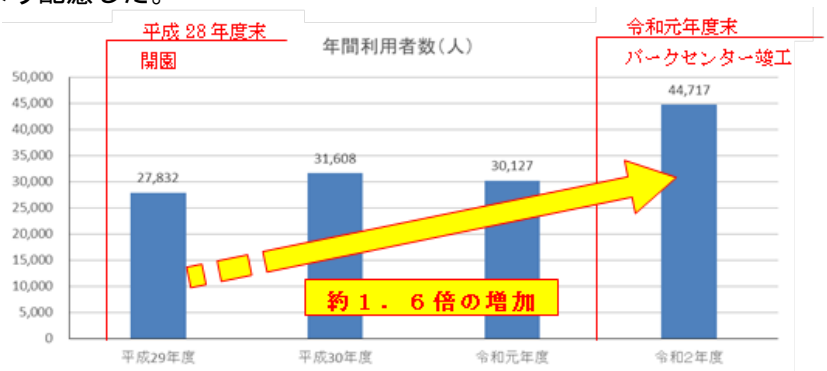


図５　開園からの来園者数

バリアフリー園路

オストメイト対応トイレ

プロジェクトの投資効果の分析

- 本プロジェクトの建設費や維持管理等の費用（C（Cost））に対する投資効果については、「利用価値」「環境価値」、「防災価値」を地域が受益している便益（B（Benefit））であると想定されるため、この費用便益比（B／C）の関係を投資効果として分析した。　この結果、本プロジェクトのB／Cは7．6となった。
- プロジェクトの投資効果の分析

$$\text{費用便益比(B／C)} = \frac{\text{供用後50年間の総便益(利用・環境・防災)}}{\text{建設費} + \text{供用後50年間の維持管理費}} = \frac{253.4\text{億円}}{33.3\text{億円}} = 7.6$$

経済的内部収益率(EIRR)　＝　16．7%

※　建設～耐用期間の総費用、総便益については、物価の変動や利率などによる社会的な貨幣価値の年変動を、社会的割引率４%として考慮（現在価値化）し、算定している。

3　プロジェクト実施にあたっての特記事項

- 基本計画見直し

　都市計画決定後から開園まで、計画地の自然環境への配慮や社会情勢の変化にあわせ、基本計画の見直しを行った。事業推進上の課題や整備後効果など検討し、整備優先順位を決めながら整備を行った。

- 生態系への配慮

　公園区域内では、過去にオオタカなど指標生物（希少種）が発見され、計画の検討や継続的な調査を行い、生物への影響が出ないかどうか確認を行いながら公園整備を行った。

- 既存地形を活かした施設整備

　雄大な富士山の眺望を楽しみながら遊べるブランコや、丘陵地の斜面を活かしたローラー滑り台等、既存の地形を活かした整備を行った。

眺望を楽しみながら遊べるブランコ

4　プロジェクトによって得られたレッスン

計画段階から事業実施段階までの事業プロセス

- 平成初期の計画段階では、「花の山里に憩い・楽しみ、森に出会い、学ぶ」をテーマに、観光振興の視点から5,000本の桜や、桜の美術館等の施設を整備する計画であったが、事業実施段階になると、本公園に求められる役割が、観光振興から地域の魅力を活かしたレクリエーションの場へと変化していった。そこで、本公園の魅力である富士山の眺望や、恵まれた自然環境、山北町に残る歴史等を最大限活かすために、既存地形の改変を極力避け、当時の鐘ヶ塚砦からの景色を見られる広場整備や、山岳景観を堪能できる園路配置、誰もが楽しめる遊具を設置する等、計画の見直しを行いながら、事業を実施した。
- このように公園に求められるニーズの変化に柔軟に対応することにより、本来あった地域の魅力を、公園利用者や地域住民にも再認識してもらうことができ、地域のニーズに即した公園を整備することができた。

5　考察

- 本公園は、開園からこれまで、県の直営にて管理運営してきたが、令和４年度から指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用しつつ、サービスの向上と経費の削減を図る予定である。指定管理者の選定の際には、事業者からは茶摘み体験や木工教室等、地元産業を活かした提案がされており、「地域と連携した魅力ある施設づくり」として有識者委員会から一定の評価を頂いたところである。
- 今後は、このような指定管理者からの提案を活かし、指定管理者と一体となって公園の管理運営に努め、更なるサービス向上と利用者増のみならず、産業振興や地域活性化に資する拠点となるよう取り組む。